

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 ユニバーサル公演事業」
出演希望調書 No.1 (共通)

| | |
|-------|--------------|
| 制作団体名 | 社会福祉法人 トット基金 |
| 公演団体名 | 日本ろう者劇団 |

分野、種目(該当する種目に○を付してください。)

| 分野 | 該当 | 種目 |
|----------|----|--------------------------------|
| 【音楽】 | | 合唱, オーケストラ等, 音楽劇, その他 |
| 【演劇】 | | 児童劇, 演劇, ミュージカル, ノンバーバルその他 |
| 【舞踊】 | | バレエ, 現代舞踊, その他 |
| 【伝統芸能】 | ○ | 歌舞伎・能楽, 人形浄瑠璃, 邦楽, 邦舞, 演芸, その他 |
| 【美術】 | | 洋画, 日本画, 版画, 彫刻, 書, 写真, その他 |
| 【メディア芸術】 | | 映像, メディアアート等, その他 |

取り組み(該当する取り組みに○を付してください。)

| 該当 | 取り組み |
|----|---|
| ○ | ①障がいを持ったアーティストが活躍する取り組み |
| | ②字幕や音声ガイド等を設置するだけでなく、障がいを持った子供たちも主体的に芸術鑑賞・体験ができるよう工夫された取り組み |

応募する取り組みが①である場合、アーティストが抱える障がいの種類

| |
|------|
| 聴覚障害 |
|------|

※採択を受けた場合、実施へ向けた調整に当たり、参考とさせていただきます。

応募する区分(該当する区分に○を付してください。)

| 該当 | 区分 |
|----|---|
| ○ | 《D 区分》公演をメインプログラムとする企画 |
| | 《E 区分》ワークショップを中心とする企画 ※ ワークショップの一環として実演を披露するものを含みます。 |

実施可能期間等(原則として令和5年6月1日(木)～令和6年1月31日(水)まで)

| | |
|---------|-----------|
| 可能期間 | 基本的に全期間可能 |
| 連日公演の可否 | ⓐ / 不可 |

実施可能地域(実施可能な地域名の前に○を付してください。)

| 該当 | 地域 | 都道府県 |
|----|--------|---------------------------------|
| ○ | 限定なし | |
| | 北海道 | 北海道 |
| | 東北 | 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島 |
| | 南関東 | 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川 |
| | 北関東・甲信 | 茨城, 栃木, 群馬, 山梨, 長野 |
| | 北陸 | 新潟, 富山, 石川, 福井 |
| | 東海 | 岐阜, 静岡, 愛知, 三重 |
| | 近畿 | 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山 |
| | 中国 | 鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口 |
| | 四国 | 徳島, 香川, 愛媛, 高知 |
| | 九州 | 福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄 |

団体の概要

【制作団体について】

| | | | |
|-------------------|--|---|---|
| ふりがな 制作団体名 | しゃかいふくしほうじんとつとききん 社会福祉法人 トット基金 | | |
| 代表者職・氏名 | 黒柳 徹子 | | |
| 制作団体所在地 | 〒141-0033 東京都品川区西品川 2-2-16 | | |
| 制作団体 設立年月 | 昭和 55 年 4 月 | | |
| 制作団体 組織 | 役 職 員 | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | 理事長:黒柳徹子 理事 8 名 評議員 10 名 監事 2 名 | 劇団員:22 名 劇団代表:江副悟史 顧問:井崎哲也 加入の条件:ろう者または手話のできる 18 歳以上の男女 | |
| 事務体制の担当 | 専任 ・ 他の業務と兼任 | Web サイト等 URL | http://www.totto.or.jp |
| 本事業担当者 | 金田弘明 | 本件連絡先 | 電話番号 090-8045-6534 メールアドレス info@kyougen.mail-box.ne.jp |
| 経理処理等の 監査担当の有無 | 有 ・ 無 | 経理責任者名 | 小池紀子 |

【公演団体について】

| | | | |
|-----------------|---|--|--|
| ふりがな 公演団体名 | にほんろうしゃげきんだん 日本ろう者劇団 | | |
| 代表者職・氏名 | 代表:江副 悟史 | | |
| Web サイト等 URL | http://www.totto.or.jp/02/ | | |

| | |
|---|---|
| <p>特別支援学校等における活動実績や障がいを持ったアーティストの活動を広げる公演等の活動実績</p> | <p>特別支援学校(ろう学校)における公演実績</p> <p>2008年度 県立高知ろう学校 手話狂言「附子」</p> <p>2017年度 中央ろう学校、坂戸ろう学園、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2018年度 旭川ろう学校、中央ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2019年度 中央ろう学校、葛飾ろう学校、横浜市立ろう特別支援学校、大宮ろう学園、明晴学園</p> <p>2020年度 中央ろう学校 ワークショップ 7回(12月～2月)、茨城県立水戸ろう学校 手話狂言「梟山伏」</p> <p>2022年度 中央ろう学校、手話狂言「梟山伏」</p> <p>一般校における公演実績</p> <p>1988年度 品川区三ツ木小学校公演体育館(PTA 主催)</p> <p>同年度 品川区立大崎中学校体育館 演目「二人袴」「しびり」</p> <p>2005年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」「梟山伏」</p> <p>2008年度 同上</p> <p>2009年度 長野県小諸市芦原中学校体育館 演目「梟山伏」「附子」</p> <p>2011年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「梟山伏」「附子」</p> <p>2014年度 同上</p> <p>2017年度 同上</p> <p>2021年度 田園調布雙葉中学校講堂 演目「附子」と手話狂言ワークショップ</p> <p>同年度 三ツ木小学校体育館 演目「附子」と手話ワークショップ</p> <p>その他一般公演実績</p> <p>1983年 イタリアで開催された「世界ろう者会議」で手話狂言を初披露</p> <p>1987年 新しいジャンルの演劇を作ったとして文化庁芸術祭賞を受賞(手話狂言)</p> <p>1991年 第11回世界ろう者会議記念公演</p> <p>1998年 国際交流基金欧州公演(ドイツ・ロシア・ハンガリー)</p> <p>2000年 創作視覚演劇「カスパー」において主演の池田大輔が芸術祭新人賞を受賞</p> <p>2002年 内閣総理大臣表彰受章</p> <p>2004年 「ギリシャにおける日本文化年 2004」に参加し、アテネで「手話狂言」の公演</p> <p>2013年 フランス・ランスで行われる国際ろう芸術祭「クランドイユ 2013」に日本代表として招へいを受け手話狂言を上演する。</p> <p>2015年 ローマ、パリにて国際手話で手話狂言の公演を行う。(文化庁国際芸術交流支援事業)</p> <p>2019年 首相官邸で手話狂言を披露(安倍総理と障害者との集い)</p> <p>2020年 国立能楽堂主催公演として「手話狂言」を上演</p> <p>2020年～2021年 さどの島銀河芸術祭参加「手話狂言」を上演</p> <p>2021年 東京オリパラ 2020『インクルーシブ NIPPON Shinagawa 発 2020 能・狂言特別公演』</p> <p>2021年 第35～36回国民文化祭・第20～21回全国障害者芸術祭参加(宮崎県・和歌山県)</p> <p>2021年 三宅右近氏と日本ろう者劇団 第31回催花賞 受賞</p> <p>1984年に「ろう者喜劇の会」から始まった手話狂言の公演は、その後「初春の会」と名称を変え、国立能楽堂にて毎年恒例の上演となり、2023年には42回を数え、レパートリーは71番に上る。</p> <p>また、2018年から始まる「手話狂言の会・体験発表会」では、ろう者による子どもたちによる手話狂言の発表会を喜多能楽堂にて毎年行い、現在に至っている。</p> |
|---|---|

令和5年度「文化芸術による子供育成推進事業 ユニバーサル公演事業」出演希望調書 No.2

《D 区分》公演をメインプログラムとする企画用

【制作団体名

】

| | | |
|--------------------|---|------------|
| 企画名 | 楽しく手話を学ぼう 手話狂言「附子」 | |
| 主な対象学年 | 全学年対象 | |
| 児童・生徒の鑑賞・体験可能人数の目安 | ワークショップ | 全校生徒(制限なし) |
| | 本公演 | 全校生徒(制限なし) |
| 企画の動画等の資料 | URL https://youtu.be/TbVnBYk12A8 | PW |

公演について

| | | | | | | |
|-------------------------------|--|--------------------|------------|--------------------|-----------------------------|-----|
| 主な演目 原作／作曲 脚本 演出／振付等 | <p>◆第1部 手話狂言「附子」(45分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館に設けた本格的な能舞台をご覧ください。 ・お話:狂言の見方、手話狂言の魅力、「附子」のあらすじなどを、解説します。 ・手話狂言「附子」の上演:聞こえる人も聞こえない人も同じように鑑賞していただきます。 <p>休憩(10分)</p> <p>◆第2部 手話狂言ワークショップ(35分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ:狂言の所作・台詞、手話狂言の演技を鑑賞者全員で体験します。 ・Q&Aコーナー:生徒からの質問に出演者が答えます。 <p>演出:三宅右近/構成・監修・振付:三宅近成</p> <p style="text-align: right;">公演時間(90分)</p> | | | | | |
| | 著作権 | ○ | 制作団体が所有 | 制作団体以外が所有する事項が含まれる | (制作団体以外が所有する事項が含まれる場合)許諾の有無 | |
| 演目概要 | <p>◆出演:太郎冠者、次郎冠者、主人</p> <p>ろう者の俳優による手話の演技に、狂言師が声を当てることによって、聞こえる人も聞こえない人も同じように楽しめる、「手話狂言」の代表作の一つです。かつては国語の教科書にも採用された狂言の演目を、会場に設置した本格的な能舞台の上で、したたかに、たくましく生きる中世の人物像を笑いとともに描きます。</p> <p style="text-align: right;">※参考:添付ファイル「手話狂言_附子」</p> | | | | | |
| 公演従事予定者の編成(1公演あたり) | <p>解説:1名 手話通訳1名</p> <p>出演:太郎冠者、次郎冠者、主人3名</p> <p>声の出演(狂言方)3名</p> <p>ワークショップ2名、手話通訳1名</p> <p>後見1名、働き1名</p> <p>以上、全9名(解説とワークショップは出演者が兼ねる) ※参考:添付ファイル「出演者」</p> | | | | | |
| 公演に当たり必要な会場条件 | <ul style="list-style-type: none"> ・舞台の設置場所 (体育館) ・舞台に必要な広さ 12m×9m ・電源容量(主幹ブレーカー容量) 30 A ・暗転の要否(不要) ・その他 | | | | | |
| 会場設営の所要時間(タイムスケジュール)の目安 | 前日仕込み(無) 会場設営の所要時間(2時間程度) | | | | | |
| | 到着 | 仕込み | 本公演 | 内休憩 | 撤去 | 退出 |
| | 10時 | 10時~12時 | 13時30分~15時 | 10分 | 15時~17時 | 17時 |
| 派遣について | 移動方法の制約等 | レンタカー移動を基本とする | | | | |
| | 運搬規模 | 機材一般はハイエース相当車両にて行う | | | | |

ワークショップについて

| | |
|---------|---|
| ワークショップ | (内容) ① 「ろう者」を知ろう！ :ろう者と手話通訳による進行のもと、ろう者が実際には身近な存在であることを知ってもらいます。 ② 「手話」を知ろう！ :手話狂言を鑑賞する前に、挨拶や数字などの簡単な手話を覚えてもらいます。 ③ 「手話」で話そう！ :手話を用いたコミュニケーションの応用として、講師からの問いかけに、実際に手話を用いて答えてもらいます。 ④ 手話狂言を演じてみよう！ :手話狂言の中で用いられる手話を覚えて、みんなで表現をしてみます。本公演では覚えた手話を発表してもらいます。 ⑤ さいごに(5分) 手話を使って「ありがとうございます」と挨拶をして終わります。 |
| | (体制) 主指導者:1名 副指導者3名(内、手話通訳1名) |
| | (目的とする効果) 普段、子供たちにとって「ろう者」と実際に会って、コミュニケーションをとる機会は決して多いとは言えません。手話というコミュニケーションツールで自ら表現して、実際に交流することで、ろう者と一緒にもものを作る喜びをも知っていただきます。 また、手話狂言を楽しみながら学び、本公演への発表の場を設けることで、個人の持つ表現力を高めながら、伝統への理解を深めていただきます。 このワークショップを通じて、ろう者ばかりでなく様々な障がいを持つ人々や外国人、ひいては自分と異なる「他者」への繋がりを感じ、子供たちがこれから生きる未来に活かすことができたらと願います。 |

企画全体について

| | |
|---|---|
| 企画のねらい | ろう者劇団の俳優と狂言師との共同作業によって演じられる手話狂言は、子供から大人まで、そして「聞こえる人も聞こえない人も」、共に楽しむことのできる、古くて新しい芸能です。手話狂言を楽しみながら笑って観ていただくとともに、ワークショップや Q&A コーナーでは、ろう者劇団の俳優や狂言師との交流の中から、伝統芸能の面白さと、手話表現におけるコミュニケーションの大切さを学んでいただける公演をつくりあげるよう取り組んで参ります。 |
| 特別支援学校等での実施における工夫等 | ・事前に学校側とヒヤリングを行い、人数や会場の規模に応じて、ワークショップのあり方や、能舞台設置における段取りなどをご相談させていただきます。 ・事前のワークショップではろう者劇団の俳優、狂言師、手話通訳が同行しますので、どんな細かい疑問や要望でも相談していただければと存じます。当団体は、小中高の学校公演のほか、ろう学校の公演経験が豊富にありますので、色々なご要望にお応えできます。 |
| 取り組み②(P. 1【募集する取り組み】を参照)で応募する場合、特に重点的に解決に取り組んできた課題(具体的な障がいの種類も記入すること) | |
| 協力・連携機関及び団体内における専門員の配置等 | 三宅狂言会の協力を得て、細かい学校との打ち合わせなどは、メールでの問い合わせの他にも担当者が口頭で説明いたします。また、手話通訳者も事前ワークショップ、本公演ともに同行いたしまして、ご不明な点、ご要望にお応えいたします。 |

聞こえる人も
聞こえない人も



手話狂言「附子」

日本ろう者劇団



社会福祉法人 トット基金
理事長 黒柳徹子

日本ろう者劇団のレパトリーの中で、最も力を入れているのが手話狂言です。なにもかも手探りの「世界ろう者演劇祭典」（1983年）に参加したイタリアのパレルモが、はるか昔のことにように思えます。あれから、演目も少しずつ増え、日本各地、世界各国のお客様に喜んでいただいています。「狂言って、こんなに面白いって知らなかった！」見終わった後、こうおっしゃるお客様がたくさんいらっしゃるのも嬉しいことです。とにかく楽しんでいただけることは絶対です。ぜひ、ご覧いただきたいと思います。そして、よろしくお願ひします。

手話狂言とは



能楽について

わが国の代表的な伝統芸能である能と狂言は、およそ650年以上前、室町時初期に成立したもので、両者は合せて「能楽」(のうがく)という名称で呼ばれています。

近年、能楽は、舞台芸術として国内外で高い評価を得ており、2001年にはユネスコの世界無形遺産の一つに選ばれています。

狂言について

狂言は「笑い」の劇です。

能とは対照的に中世庶民社会の日常や民間説話を素材として、普遍的な人間像を描き出しています。

洗練された骨太の芸は、

和やかな楽しい笑いをもたらしてくれます。



手話狂言

狂言のセリフは室町時代から江戸時代までの古いことばです。昔から継承された狂言特有の動き、運びをそのままに、手話表現の研究を重ね、古典芸能にふさわしい手話狂言を作ることにつとめました。手話のセリフと声のタイミングや間の取り方にも工夫を重ね、古典芸能の強靱さと、手話の豊かな表現力をあわせもつ、手話狂言が誕生したのです。狂言の台詞を、手話と声の両方で、表情豊かに表現しますので、聞こえる人も聞こえない人も共に楽しむことができます。



ご主人さまから留守番を言いつけられた太郎冠者と次郎冠者。
主人は手桶を持ち出し
その毒気にあたってもしぬでしぬほどの猛毒「附子」が入っているから
気をつけて番をするようにと言ひ渡します。

「附子」を前に二人は興味津々。
なんとか手桶の中を見ようとして
毒気に当たらないように
扇であおぎながら「附子」に近寄り
手桶の蓋を開けました。



中に入っていたのは何と砂糖。
当時砂糖は大変な高級品なので
主人は二人に食べられないように
中身が「附子」だと嘘をついていたのです。
砂糖とわかってしまうと
たちまち二人は平らげてしまいました。

砂糖を食べてしまった言い訳をしようと
二人は何を思ったか
ご主人の大切にしていた
掛け軸やお茶碗などのお宝をこわしてしまいます。
いったいご主人に
どんな言い訳をするのでしょうか？



二人の生き生きとした対話、扇であおぎながら附子に近づく大胆なしぐさ、おいしそうに砂糖を食べる表情、掛け軸や天目茶碗をこわす時の擬音（効果音）の面白さ。また附子を食べってしまった機智に富んだ言い訳に、思わず声をあげて笑ってしまうことでしょう。狂言の魅力がいっぱいにつまった演目です。

手話狂言ワークショップ



手話狂言「附子」を観て

事前ワークショップで覚えた手話が手話狂言の中に出てきました。
わかった人はみなさんの前でその手話を発表してみましょう。



狂言と手話狂言

狂言の一場面を、狂言と手話狂言それぞれで演じてみます。
「名乗り」「道行き」といった狂言の代表的な場面が、
どのように演じられるのか、同じ場面が手話狂言になると、
どのように表現されるのか、その違いを見比べてみましょう。

このあたりのものでござる



セリフに挑戦

狂言の代表的な名乗りのセリフ、
「このあたりのものでござる」の一言を
手話の速度、動きの大きさに気をつけて演じてみましょう。



手話狂言を演じてみよう

最後に狂言の一場面を皆さんに演じてもらいます。
二つのグループに分かれて、狂言のセリフの掛け合いを、
手話で演じてみましょう。



みんなの前で覚えた手話を発表します



手話狂言をみんなで演じてみよう

手話狂言「附子」をご覧になったところで、事前ワークショップで習った手話の確認をします。
そして手話狂言がどのような稽古によって成り立っているのかを説明し、日本ろう者劇団の俳優
と、狂言師との二人三脚で演じる様子を舞台上で実演します。
鑑賞の生徒には手話狂言を実際に演じてもらうことで、自己の表現力を高めるほか、Q&A コーナー
では出演者に積極的に質問をすることによって、コミュニケーション能力の向上を目指します。

手話狂言上演の様子



手話狂言から学ぶこと

狂言は舞台セットをほとんど用いない、何もない空間である「能舞台」の上で演じられ、その場面は、演者の台詞と動きだけで表現されます。そして狂言は笑いの芸能です。鑑賞者は楽しみ、笑いながら、演者の動きと言葉だけで、気づかぬうちに想像力を働かせ、多くの情景を能舞台に見いだしてゆきます。

そして言葉の芸能といわれる「狂言」は、台詞の緩急や抑揚の自在な使い分け、室町以来に培われた発声方法が大きな特徴です。これを手話で演じるにあたって、試行錯誤を繰り返しながら、さまざまな工夫を凝らして演じます。狂言そのままの型・動きに加えられた手話表現に、狂言師がマイクで声をあてる手話狂言は、あたかも手話そのものが声を発しているようだという感想をいただいております。

日本ろう者劇団の俳優と和泉流狂言師との共同作業による、「聞こえる人も聞こえない人も」同じように楽しめる手話狂言「附子」の鑑賞から、古典芸能の魅力学び、手話表現によるコミュニケーション能力向上をめざします。



フロア上設置イメージ
(基本的な設置形態です)



ステージ上設置イメージ
(鑑賞者数多数の場合に選択いただけます)

主な出演者

日本ろう者劇団代表・江副悟史（えぞえさとし）



両親・兄ともろう者の家庭で育つ。2008年、社会福祉法人トット基金（理事長：黒柳徹子）付帯劇団「日本ろう者劇団」入団以降、視覚演劇公演および手話狂言公演に多数出演。2017年より当該団体代表に就任。東京オリンピック・パラリンピック関連イベントにも携わり、手話狂言を披露。演者としては勿論、劇団代表として様々な分野でのろう演劇普及に尽力、現在に至る。その他経歴として、2009年NHK「こども手話ウィークリー」にて最年少キャスターとして抜擢。その後NHK「ハートネット」「ろうを生きる難聴を生きる」「手話で楽しむみんなのテレビ」など福祉番組に多数出演。映画やドラマなどの出演、手話指導・監修にも携わる。NHKBS「しずかちゃんとパパ」では主演・笑福亭鶴瓶氏への手話指導を行い、「第48回放送文化基金賞」にて同番組が優秀賞を受賞、笑福亭鶴瓶氏も演技賞を受賞した。俳優・手話指導のほか、年間50本ほどの講演もこなし、全国各地で活動の場を広げている。

日本ろう者劇団・砂田アトム（すなだあとむ）



県立松山ろう学校小学部の時から演劇に興味を持ち舞台に立つ。1999年「カスペー」以降、「永遠の一夜」、「ある砂の家族」、「翼のない天使」に客演。2002年手話狂言「鐘の音」初舞台とともに入団。2003年～2010年各自主公演に出演。劇団外でも映画、舞台、テレビ、ビデオで活躍している。現代劇・時代劇・コメディなどジャンルは幅広く、舞台監督や舞台美術もこなし、イラスト個展も開催。2013年仏クランドイユ演劇祭招待作品「アトムのひとり芝居」は世界各国からの参加者で大盛況、国際的にも活動の幅を広げている。

日本ろう者劇団・鈴まみ（すずまみ）



1996年入団。同年アトリエ公演「デフ・パラダイス」でデビュー。手話狂言、創作劇に多数出演。2003年～2005年制作も担当。外部出演では1998年イスパシオ「乗合馬車のキップ」、2000年みずノ卵公演vol3「コクトーの遺言」、2002年風の市プロデュース・シアターX提携公演「雨月」、2002年演劇企画室千里魚眼「アルトーの黙示録」他、2010年劇団しゅわえもん「ブンナよ、木からおりてこい」、2011年「あらしのよるに」、2017年うごく作品VOL.1、2019年VOL.10、2019年濃淡公演VOL.01に参画。2020年全日本ろうあ連盟創立70周年記念映画に出演。座・高円寺劇場創造アカデミー12期生講義のみ修了。

狂言方和泉流・三宅近成（みやけちかなり）



能楽師狂言方和泉流。祖父は人間国宝・世三宅藤九郎。父、重要無形文化財保持者・三宅右近に師事。3歳で「柑子俵」にて初舞台に出演して以来、2004年「三番叟」、2007年「釣狐」、2012年「金岡」、2015年「花子」といった秘曲、大曲を披く。能楽堂の能会その他、全国の会館での一般公演、小中高校生対象とした芸術鑑賞教室などに多数出演。狂言方としての活動以外にも、オペラ、現代劇にも出演する傍ら、落語や紙切りなどの演芸やミュージカルとのコラボレーション企画もプロデュースしている。手話狂言には自ら手話を用いて日本ろう者劇団の指導にあたる一方で、2014年の手話狂言公演「初春の会」の「髷櫓」でシテを勤めた。2016年より行われている「手話能」では、能の出演者が手話と同時にセリフを言う全国でも初めての試みが行われ、以降、全公演に間狂言として出演、高い評価を得る。公益社団法人能楽協会会員及び東京支部常任理事。社会福祉法人トット基金理事役員。

【令和5年度文化芸術による子供育成推進事業－ユニバーサル公演事業－実施条件等確認書①】

| | | | | | | | |
|-------|---------|-------------|------|-------------|-------------|----|-----|
| ID | UNI-13 | 分野 (大項目) | 伝統芸能 | 分野 (中項目) | - | 区分 | D区分 |
| 公演団体名 | 日本ろう者劇団 | | | 制作団体名 | 社会福祉法人トット基金 | | |

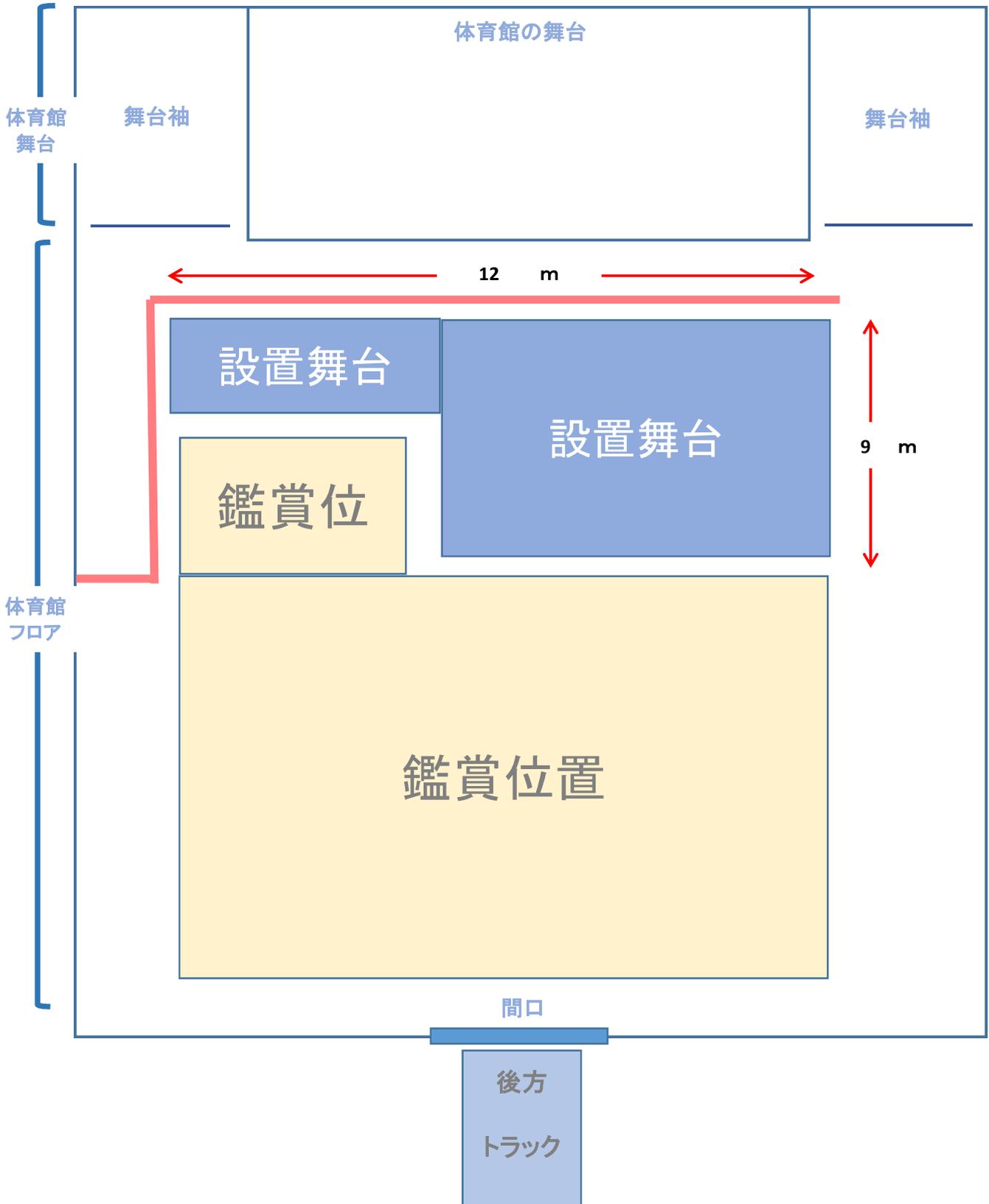
① 会場条件等についての確認

| 項目 | 必要条件等 | | | | | | | 応相談 | |
|------------|-----------------------------------|----------------|--|------------|-----------|------------------------|-----|------|---|
| 控室について | 必要数 * | 不要 | 条件 | | | | | 可 | |
| 搬入について | 来校する車両の大きさ台数 * | | バン | 1台 | 乗用車 | 3台 | | 可 | |
| | 上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細 | | | | | | | / | |
| | 来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ | | 車幅1.9m×車長4.7m | | | | | 可 | |
| | 搬入車両の横づけの要否 * | | 要 | | | | | 可 | |
| | 横づけができない場合の搬入可能距離 * | | 30m以内 | | | | | 可 | |
| | 搬入経路の最低条件 | | | | | | | 可 | |
| | 理由 | | | | | | | / | |
| | 設置階の制限 * | | エレベーターの設置等があれば2階以上も可 | | | | | 可 | |
| | 搬入間口について 単位:メートル | | 幅 | 1.8 | 高さ | 1.8 | | 可 | |
| WSIについて | 参加可能人数 | | 全校 | | | | | 可 | |
| | 学年の指定の有無 * | | なし | 指定学年 * | | | | 可 | |
| | 所要時間の目安 単位:分 | | 90分 | | | | | 可 | |
| 本公演について | 会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間 | | ※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。 | | | | | / | |
| | 鑑賞可能人数 | | 全校 | | | | | 可 | |
| | 舞台設置場所 * | | ステージ上への設置・フロアへの設置ともに対応可能 | | | | | 可 | |
| | 舞台設置に必要な広さ 単位:メートル | | 幅 | 12 | 奥行 | 9 | 高さ | 指定なし | 可 |
| | 体育館の舞台を使用する場合の条件 | 舞台袖スペースの確保 * | | 不要 | | | | | 可 |
| | | 舞台袖スペースの条件 * | | | | | | | 可 |
| | | 緞帳 * | 不要 | | バトン * | 不要 | | | 可 |
| | 遮光(暗幕等)の要否 * | | 不要 | | 理由 | | | | 可 |
| | ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です) | 指定位置へのピアノの移動 * | | 不要 | | ※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。 | | | 可 |
| | | ピアノの事前調律 * | | 不要 | | | | | 可 |
| | フロアを使用する場合の条件 | | バスケットゴールの設置状況 * | | 格納されていれば可 | | | | 可 |
| 公演に必要な電源容量 | | 30A | | ※主幹電源の必要容量 | | | | 可 | |
| その他特記事項 | | | | | | | 応相談 | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |

会場図面(表記単位:メートル)

| | | | | |
|-------------------|---|-------|----|-----|
| 搬入間口について | 幅 | 1.8 | 高さ | 1.8 |
| 搬入車両の横づけの要否 | | 要 | | |
| 横づけができない場合の搬入可能距離 | | 30m以内 | | |

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。



| | | | |
|--------|-------------|----------|----|
| UNI-13 | 社会福祉法人トット基金 | 前日仕込みの有無 | なし |
| D区分 | 日本ろう者劇団 | 伝統芸能 | |

| | | |
|-------|-----|---|
| 6月1日 | 木 | ○ |
| 6月2日 | 金 | ○ |
| 6月3日 | 土 | |
| 6月4日 | 日 | |
| 6月5日 | 月 | |
| 6月6日 | 火 | |
| 6月7日 | 水 | ○ |
| 6月8日 | 木 | ○ |
| 6月9日 | 金 | ○ |
| 6月10日 | 土 | |
| 6月11日 | 日 | |
| 6月12日 | 月 | |
| 6月13日 | 火 | ○ |
| 6月14日 | 水 | ○ |
| 6月15日 | 木 | |
| 6月16日 | 金 | |
| 6月17日 | 土 | |
| 6月18日 | 日 | |
| 6月19日 | 月 | |
| 6月20日 | 火 | |
| 6月21日 | 水 | ○ |
| 6月22日 | 木 | ○ |
| 6月23日 | 金 | ○ |
| 6月24日 | 土 | |
| 6月25日 | 日 | |
| 6月26日 | 月 | |
| 6月27日 | 火 | ○ |
| 6月28日 | 水 | |
| 6月29日 | 木 | |
| 6月30日 | 金 | |
| 7月1日 | 土 | |
| 7月2日 | 日 | |
| 7月3日 | 月 | |
| 7月4日 | 火 | ○ |
| 7月5日 | 水 | ○ |
| 7月6日 | 木 | ○ |
| 7月7日 | 金 | ○ |
| 7月8日 | 土 | |
| 7月9日 | 日 | |
| 7月10日 | 月 | |
| 7月11日 | 火 | ○ |
| 7月12日 | 水 | ○ |
| 7月13日 | 木 | ○ |
| 7月14日 | 金 | |
| 7月15日 | 土 | |
| 7月16日 | 日 | |
| 7月17日 | 海の日 | |
| 7月18日 | 火 | |
| 7月19日 | 水 | |
| 7月20日 | 木 | ○ |
| 7月21日 | 金 | ○ |
| 7月22日 | 土 | |
| 7月23日 | 日 | |
| 7月24日 | 月 | |
| 7月25日 | 火 | |
| 7月26日 | 水 | |
| 7月27日 | 木 | |
| 7月28日 | 金 | |
| 7月29日 | 土 | |
| 7月30日 | 日 | |
| 7月31日 | 月 | |

| | | |
|-------|------|---|
| 8月1日 | 火 | |
| 8月2日 | 水 | |
| 8月3日 | 木 | |
| 8月4日 | 金 | |
| 8月5日 | 土 | |
| 8月6日 | 日 | |
| 8月7日 | 月 | |
| 8月8日 | 火 | |
| 8月9日 | 水 | |
| 8月10日 | 木 | |
| 8月11日 | 山の日 | |
| 8月12日 | 土 | |
| 8月13日 | 日 | |
| 8月14日 | 月 | |
| 8月15日 | 火 | |
| 8月16日 | 水 | |
| 8月17日 | 木 | |
| 8月18日 | 金 | |
| 8月19日 | 土 | |
| 8月20日 | 日 | |
| 8月21日 | 月 | |
| 8月22日 | 火 | |
| 8月23日 | 水 | |
| 8月24日 | 木 | |
| 8月25日 | 金 | |
| 8月26日 | 土 | |
| 8月27日 | 日 | |
| 8月28日 | 月 | |
| 8月29日 | 火 | ○ |
| 8月30日 | 水 | ○ |
| 8月31日 | 木 | ○ |
| 9月1日 | 金 | ○ |
| 9月2日 | 土 | |
| 9月3日 | 日 | |
| 9月4日 | 月 | |
| 9月5日 | 火 | ○ |
| 9月6日 | 水 | ○ |
| 9月7日 | 木 | |
| 9月8日 | 金 | ○ |
| 9月9日 | 土 | |
| 9月10日 | 日 | |
| 9月11日 | 月 | |
| 9月12日 | 火 | |
| 9月13日 | 水 | |
| 9月14日 | 木 | |
| 9月15日 | 金 | |
| 9月16日 | 土 | |
| 9月17日 | 日 | |
| 9月18日 | 敬老の日 | |
| 9月19日 | 火 | ○ |
| 9月20日 | 水 | ○ |
| 9月21日 | 木 | |
| 9月22日 | 金 | |
| 9月23日 | 秋分の日 | |
| 9月24日 | 日 | |
| 9月25日 | 月 | |
| 9月26日 | 火 | |
| 9月27日 | 水 | |
| 9月28日 | 木 | |
| 9月29日 | 金 | ○ |
| 9月30日 | 土 | |

| | | |
|--------|--------|---|
| 10月1日 | 日 | |
| 10月2日 | 月 | |
| 10月3日 | 火 | ○ |
| 10月4日 | 水 | ○ |
| 10月5日 | 木 | ○ |
| 10月6日 | 金 | ○ |
| 10月7日 | 土 | |
| 10月8日 | 日 | |
| 10月9日 | スポーツの日 | |
| 10月10日 | 火 | |
| 10月11日 | 水 | |
| 10月12日 | 木 | |
| 10月13日 | 金 | |
| 10月14日 | 土 | |
| 10月15日 | 日 | |
| 10月16日 | 月 | |
| 10月17日 | 火 | |
| 10月18日 | 水 | |
| 10月19日 | 木 | |
| 10月20日 | 金 | |
| 10月21日 | 土 | |
| 10月22日 | 日 | |
| 10月23日 | 月 | |
| 10月24日 | 火 | ○ |
| 10月25日 | 水 | ○ |
| 10月26日 | 木 | |
| 10月27日 | 金 | |
| 10月28日 | 土 | |
| 10月29日 | 日 | |
| 10月30日 | 月 | |
| 10月31日 | 火 | |
| 11月1日 | 水 | |
| 11月2日 | 木 | |
| 11月3日 | 文化の日 | |
| 11月4日 | 土 | |
| 11月5日 | 日 | |
| 11月6日 | 月 | |
| 11月7日 | 火 | |
| 11月8日 | 水 | |
| 11月9日 | 木 | ○ |
| 11月10日 | 金 | ○ |
| 11月11日 | 土 | |
| 11月12日 | 日 | |
| 11月13日 | 月 | |
| 11月14日 | 火 | |
| 11月15日 | 水 | |
| 11月16日 | 木 | |
| 11月17日 | 金 | |
| 11月18日 | 土 | |
| 11月19日 | 日 | |
| 11月20日 | 月 | |
| 11月21日 | 火 | ○ |
| 11月22日 | 水 | |
| 11月23日 | 勤労感謝の日 | |
| 11月24日 | 金 | ○ |
| 11月25日 | 土 | |
| 11月26日 | 日 | |
| 11月27日 | 月 | |
| 11月28日 | 火 | ○ |
| 11月29日 | 水 | |
| 11月30日 | 木 | |

| | | |
|--------|------|---|
| 12月1日 | 金 | ○ |
| 12月2日 | 土 | |
| 12月3日 | 日 | |
| 12月4日 | 月 | |
| 12月5日 | 火 | |
| 12月6日 | 水 | |
| 12月7日 | 木 | |
| 12月8日 | 金 | |
| 12月9日 | 土 | |
| 12月10日 | 日 | |
| 12月11日 | 月 | |
| 12月12日 | 火 | ○ |
| 12月13日 | 水 | |
| 12月14日 | 木 | |
| 12月15日 | 金 | ○ |
| 12月16日 | 土 | |
| 12月17日 | 日 | |
| 12月18日 | 月 | |
| 12月19日 | 火 | ○ |
| 12月20日 | 水 | ○ |
| 12月21日 | 木 | |
| 12月22日 | 金 | ○ |
| 12月23日 | 土 | |
| 12月24日 | 日 | |
| 12月25日 | 月 | |
| 12月26日 | 火 | |
| 12月27日 | 水 | |
| 12月28日 | 木 | |
| 12月29日 | 金 | |
| 12月30日 | 土 | |
| 12月31日 | 日 | |
| 1月1日 | 元日 | |
| 1月2日 | 火 | |
| 1月3日 | 水 | |
| 1月4日 | 木 | |
| 1月5日 | 金 | |
| 1月6日 | 土 | |
| 1月7日 | 日 | |
| 1月8日 | 成人の日 | |
| 1月9日 | 火 | ○ |
| 1月10日 | 水 | ○ |
| 1月11日 | 木 | ○ |
| 1月12日 | 金 | ○ |
| 1月13日 | 土 | |
| 1月14日 | 日 | |
| 1月15日 | 月 | |
| 1月16日 | 火 | ○ |
| 1月17日 | 水 | ○ |
| 1月18日 | 木 | ○ |
| 1月19日 | 金 | ○ |
| 1月20日 | 土 | |
| 1月21日 | 日 | |
| 1月22日 | 月 | |
| 1月23日 | 火 | ○ |
| 1月24日 | 水 | ○ |
| 1月25日 | 木 | ○ |
| 1月26日 | 金 | ○ |
| 1月27日 | 土 | |
| 1月28日 | 日 | |
| 1月29日 | 月 | |
| 1月30日 | 火 | ○ |
| 1月31日 | 水 | ○ |